

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	百貨店（売場担 当）	単価の動き	・売上が前年比5～10%程度落ちていた衣料品が今月 に入って同3%減にとどまっている。大きな特徴とし ては、スーツ系中心の紳士服が下げ止まっており、全 体でも単価の下落率が改善されている。来客数はほぼ 前年並みの前年比99.9%、売上は同99.0%と今年に 入って一番良く、景気は回復している。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	販売量の動き	・客の購買力が良くなっており、売上も少しではある が良くなっている。
		商店街（代表 者）	それ以外	・商店街で空いていた店舗が少しずつ埋まり始めてお り、少しずつ景気は回復している。
		一般小売店〔生 花〕（経営者）	販売量の動き	・4月は花が動く季節ということもあり、年末終わっ て静まり返ったような1月よりは良い状況である。
		百貨店（売場主 任）	それ以外	・リニューアル効果もあり、館全体の売上高が前年を 超え始めた。客の購買意欲は先月よりも高い。
		百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・平日の来客数は前年並みまでは回復していないが、 土日の来客数が伸び、祝日を加えた土日祝日の来客数 はそれ以上に伸びており、客の購買意欲は回復傾向に ある。
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・高額品に対する客の反応が従来より良くなってい る。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・野菜の高値はマイナス要因であるが、客の買上量自 体は増えつつある。以前と変わらないような販売金額 になっている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・衣料関係の動きは変化がなく相変わらず低調であ る。住関連と食品は来客数、販売点数が前年並みに 戻っており、売上は前年を上回っている。お祝いギフ トマーケット商品が前年比120%と大変良く伸びてお り、単価は前年並みとなっている。
		スーパー（企画 担当）	来客数の動き	・競合店の低価格攻勢に対する販促戦略が功を奏し、 来客数が戻りつつある。若干ではあるが景気は回復し ている。
		コンビニ（エリ ア担当・店長）	来客数の動き	・全体的に来客数が持ち直している。特にタスポの影 響で反動減となっていたエリアの来客数が前年を上 回っている。
		家電量販店（総 務担当）	お客様の様子	・価格ではなく、高付加価値、高機能の商品に動きが 出ており、やや良くなっている。
		その他専門店 〔書籍〕（店 長）	来客数の動き	・消費者は長期間の耐久生活に我慢の限界が来ている 様子である。来客数が少しずつ増えており、客単価も 増加傾向にある。
		その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 （従業員）	販売量の動き	・空港の搭乗客が前年比2%の減少にとどまってお り、それに伴い商品の動きも良くなっている。
		高級レストラン （専務）	来客数の動き	・高速道路料金引下げの影響で休日に客が増え、新幹 線全線開通に関するビジネス客も増えている。
		高級レストラン （社長）	お客様の様子	・観光客が増えており、やや良くなっている。
		高級レストラン （支配人）	単価の動き	・来客数の伸びはそれほど変化を感じないが、利用単 価は低い数字ではない。ある程度の富裕層が少しずつ お金を使い始めている様子である。
		観光ホテル（総 務担当）	来客数の動き	・4月は宿泊部門の稼働率が久しぶりに前年を上回っ ている。
		通信会社（業務 担当）	販売量の動き	・今月は新商品の発売や新規限定の低価格商品があ り、新規台数、買換え台数共に前年を上回っている。
		美容室（店長）	お客様の様子	・客の話から仕事がないと聞いていたが、求人が少し ずつ出ており、客は2週間位で再就職できたという。 景気は少しずつ良くなっている。
その他サービスの 動向を把握でき る者〔介護 サービス〕（管 理担当）	来客数の動き	・前月から客が大幅に増加しており、やや良くなっ ている。		
変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・4月は入進学が一番忙しい時期だが、来街者数は少 ない。客単価も下がり、悪い状況が続いている。	

商店街（代表者）	販売量の動き	・例年であれば、4月に入っているんな行事や行楽等が増えるが、今年はほとんど動きがない。今まで経験したことがないほどの非常に悪い動きである。
商店街（代表者）	来客数の動き	・土日祭日は、近くの交差点は黒山の人だかりのようになっていたが、この前の日曜日は全く人影がなくなり、これが日曜日かというほどの光景であった。厳しい状況である。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・例年売上が減少していく日本茶は、寒い日が続いたこともあり、先月と変わらない動きであった。新茶も徐々に入荷されているものの、悪天候のため例年より仕入れ値が高めとなり、買手は少ない状態である。
百貨店（営業担当）	単価の動き	・来客数、買上率、客単価すべてにおいて前年を下回っている。来客数、買上率は同業者の施策等の外部要因の影響もあるが、客単価は景気回復感の遅れである。
百貨店（営業担当）	単価の動き	・来客数はなんとか前年を上回るようになってきている。低価格戦略は実施していないが、物自体が安くなってきているのを数量でカバーできていないのが現状である。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・大型のマーケット商品が低調となっており、売上、来客数共に前年実績を下回り、景気回復を感じられない。食品における限定品やこだわり品は善戦しているものの、4月は気温が低かったこともあり、春物衣料品が動かない。宝石や高単価商品の売上も不振の状況が続いている。
百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・依然として厳しい状況であるが、気温の影響が大きく景気の後退は感じられない。客の堅実な買い方が継続している。
百貨店（企画）	販売量の動き	・売上高の伸び率に変化がなく、3か月前と同様に前年比93～94%程度で推移している。一部報道によると、高額品の売上が好転しているとのことだが、地方までは波及していない状況である。また気温の影響も大きく、春物衣料が伸び悩んでいる。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク前で客は若干買い渋りをしている。またガソリン等の高騰により、家計の見直しをする消費者が増えている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・天候不順のため、衣料品の売上が前年比65%とかなり厳しい状況となっている。食料品もここ5か月流れが変わらない状況で、前年比94%で推移しており、当分はこの状況が続く。口蹄疫問題があったため、精肉の動きが悪くなるのではないかと懸念がある。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品は物価の下げ止まりの影響で売上が前年比2%ほど改善している。衣料品は同5%減少しているが、景気としてはあまり変わらない。ただし高額品が少しずつ動き出した。
スーパー（店長）	お客様の様子	・先行きの不透明感は相変わらず継続しており、消費者の節約志向は依然として強まっている。特に低価格品へのシフトが続いており、他社との値下げ競争が収益をかなり悪化させている。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・天候不順もあるが、衣料品の動きが極端に悪い。食料品も野菜の値上がり等があり、買上点数、客単価共に低調に推移している。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・ロープライス商品の動きは非常に活発化しているが、高単価、高額商品の動きは今一良くない状況である。買上点数そのものも鈍化している。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・来客数の減少より売上の減少が大きく、客単価、1品単価が落ちている。チラシ等の販促に大きく左右される傾向にある。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3月からの気温低下により、例年売行き商品である冷やし麺やソフトドリンク、アイス等の売上が前年を大きく下回っている。客の動きも例年は飲料に加えて弁当やデザートを買う等買上点数が多かったが、飲料単品のみ購入が多くみられ、客単価が大幅に減少している。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店の売上が前年比101.5%、コンビニエンスストアが同108.1%、ローカルスーパーが同110.1%となった。内容をみると販売数量が3～4割多くなっている。

コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・天候不順もあり、売上が伸びない。ついで買い、もう1品買いの客が減っている。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・春寒の影響で春物は全滅状態である。見るだけの客ばかりで、客の購買意欲は全くみられない。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・試着して商品を気に入っても、購入に繋がらないケースが増えている。なかなか暖かにならないこともあり、スプリングコートを探す客は多かったが、春物衣料の売行きがあまり良くない。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・客の何かを買いたいという気持ちは強く感じるが、寒いうえに、商品が初夏を急ぐような物が多く、動かない。今すぐ着れるものという意識が定着しており、なかなか物が動かない状況だ。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・客の買物に対する態度が全く変わらない。非常に慎重かつ価格に敏感である。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・4か月連続で前年を上回っているが、これは政府の景気浮揚策、エコカー減税があつての販売量であり、もう少し様子を見る必要がある。
乗用車販売店（管理担当）	お客様の様子	・客の動きは例月と変わらない。自動車販売は4月に入って売上が鈍っている。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・エコカー補助金制度のおかげで、3か月前と同様今月も新車販売が好調に推移している。
自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・高速道路料金上限制が2転3転しており、なかなか販売につながらない。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・春の木工まつりが開催されたが、メイン会場への来場者数は秋の木工まつりには及ばなかったものの予想を上回る来場者数であった。しかしこれはメーカー直販の販売であり、地元販売店へのデメリットは大きく、店舗での販売は来客数、客単価共に厳しい状況である。
その他専門店 [コーヒー豆]（経営者）	来客数の動き	・客単価が若干上がり、来客数も増加しているため、3か月前に比べると若干回復傾向にある。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は仕入価格の上昇により、じわりじわりと上昇している。販売量は前年とさほど変わりなく推移している。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（支配人）	来客数の動き	・前年12月から底を打った感は見受けられるが、売上は前年の水準を行ったり来たりしており、少し鈍化した感がある。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月は歓迎会等少しずつ入っているが、中旬にはその動きも止まり、その状況が続いている。ゴールデンウィーク前になると客はお金を使わない傾向にあり、なかなか動かない。前年よりは良かったが、もう少し上向きになっても良い。
スナック（経営者）	来客数の動き	・相変わらず来客数は低いレベルで推移しており、特に週末の営業の勢いが無い。
その他飲食 [居酒屋]（店長）	来客数の動き	・4月は歓送迎会の月であり、客に手紙を出したりと頑張っていたが、県外客がめっきり少なくなり、やはり不景気は続行している。
旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・販売動向が前年を下回る状況が継続しており、前年比も3か月前とほぼ変わっていない。
タクシー運転手	来客数の動き	・NHK大河ドラマの影響で、長崎への観光客が増えている。また修学旅行の客も増えている。
タクシー運転手	来客数の動き	・4月は歓送迎会、花見等客が動く時期であるが、今年は歓迎会を簡単に済ませ、夜の繁華街への出入りが少ない状況である。花見の客も気候の関係で大変少なかった。
通信会社（管理担当）	それ以外	・資金繰りの厳しい状態が続いている。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・季節要因と代理店販売強化施策で販売量は増えたが、一過性のものである。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・携帯電話の動向は、増えはするが同じだけ解約もでており、純増にはならずほとんど変わらない状態である。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・個人の宿泊、ゴルフの状況は横ばいである。法人客は依然、停滞気味である。

	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・4月を迎えて入場者数が大分落ち込んでいる。地方、特に鹿児島地域は依然デフレの状況にあり、所得が伸び悩んでいるため、入場者数は減少し、厳しい状況が続く。	
	音楽教室	お客様の様子	・新入会の生徒数が前年比15%アップしているが、前年より既存生徒の退会率が高く、在籍生徒数としては変化がない。退会理由のほとんどが経済的な理由である。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・土地の仲介状況を見ると、問い合わせ数並びに成約数の推移が変わっていないため、景気は横ばいで変わっていない。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数、単価の動きはあまり変わっていないが、現在卒業入学就職等でかなり出費が多く、客の財布のひもがかなり固く閉められている。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順により春物衣料品の動きは不振である。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街のブティックのオーナーの話であるが、以前であれば、ある程度の単価でも購入していた客が、5,000円を超えるとためらうと嘆いている。特に中学生、高校生の子供をもつ40～50代前半の主婦の動きが鈍くなっているという。	
	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・2か月ほど、青果物が品不足で高騰している。物が売れて高いのではなく、物がないなかで高いので、かなり厳しい状況である。これがいつまで続くのか不透明でかなり厳しい。	
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	それ以外	・例年と違う最悪の状況に同業者で嘆いている。例年ゴールデンウィーク前は悪くなるが、今年は例年以上であり、どん底の状況である。	
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・客の必要な物だけを購入する姿勢は変わっていないが、メーカーから入荷する商品も毎年少しずつ単価が落ちており、同じ数量売れても、売上が落ちていくという状況である。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・買上単価の下落傾向が続いている。同業者全体に低価格志向の傾向が強まっており、とどまるどころがみえない。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・テレビを購入したことで他の商品にお金が回らず、中旬以降から非常に悪くなっている。このままの状況でいくと景気はまだ少し下がる。	
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・客を前倒しして確保したことで、4月は来店が少ない。	
	都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・4月のインターネットでの売上は、シェアは変わらないものの、前年比で1割程度落ちている。福岡に来る客が減っている。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・お金を使わない客が増えており、景気は不安定である。土日祝日は自家用車で遠出する消費者が増えており、タクシー利用は減少している。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・雨が多いせいか観光客が少なく、夜も金土だけ少し動くが、客は少ない。	
	通信会社（総務担当）	お客様の様子	・県内の景気は全体に足踏み状態で一向に上向いていない。雇用、所得の悪化の度合いは弱まっているというものの、景気の回復感乏しい。特に個人消費は弱まっており、活気が感じられない。	
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・この3か月間の天候は前年比で雨の日、低温の日が多く、アウトドア活動には悪く作用しているため、消費者の動きが鈍い。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前で毎年期待されるが、今年は客が来ない。
その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）		単価の動き	・客単価が減少している。原油価格の高騰や公共事業の圧縮も含め、今後更に悪化の方向に向かう。	
悪くなっている	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・卸売、小売共に販売量が格段に減少している。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客の来店がなく、売上が望めない。厳しい状況である。	

企業動向関連	良く なっている	その他サービス業〔物品リース〕（従業員）	取引先の様子	・低価格競争の激化により、契約額が低迷している。従来に比べ大口案件は少ないが、小口案件等新規案件の引合件数が徐々にではあるが増加傾向に転じている。
	やや良く なっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月まではかなり厳しかったが、4月に入り少しずつ動きが良くなり始めている。特にスーパー、居酒屋等の納品が良くなりつつある。ただし、加工メーカー向けの納品は依然として厳しい状況であり、前年を下回っている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1、2月に比べ受注量が増えている。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・自社だけではなく同業他社、家具店等の売上が上向している。平均的に売上額が上がっており、確実に回復しつつある。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量は増加しているが、原料価格の急騰による販売価格の先高感から需要家が発注を前倒した需要の先食いであり、必ずしも実需が回復しているわけではないため、少し状況を見守る必要がある。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・クリーンエネルギー等、業界によってはやや持ち直ししており、受注量、受注単価が改善している。ただし、相対的に単価が大変厳しい。
		通信業（経理担当）	それ以外	・各社とも決算状況が良い。
		金融業	取引先の様子	・製造業の受注は、輸出製品を中心に3か月前より確実に増加している。取引先は緩やかにではあるが、回復の兆しはある。また従業員を削減した結果であるが、ゴールデンウィークも例年より休日が少ない。最少の人員ながら、稼働状況は順調である。2年前をピークとすると7割程度の売上である。
		金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・大手企業を中心に企業業績が回復傾向にあり、徐々に消費も持ち直しの動きがみられる。
		金融業（調査担当）	受注量や販売量の動き	・新聞等によると景気は持ち直しているというが、個人所得や取引先の雇用環境をみると景気は変わらない。
金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の中小企業に設備投資の情報が始めている。3か月前は全く出てなかったが、最近では訪問先でも土地取得のため、売り情報のリクエストが出ている。		
経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・厳しい状況というのはあまり変わらないが、売上等には下げ止まっている状況にある。前年比100%、もしくは前年を若干上回っている企業が久しぶりに出ている。		
変わらない	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・閑散期に入り、例年と変わらない発注量にとどまっている。百貨店が売上を伸ばしているが、すべて中国や他のアジア地区での生産である。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連は順調に推移しており、受注量、単価共に良い状況で推移している。全般的にまだ今の景気自体は継続していく。また精密機械部門も同じような状況にある。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・一部食料品の荷動きが良くなったが、反面、日用雑貨やパレル、園芸用品、化学工業品などの荷動きが悪くなっている。全体的には良くない。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・取引先の状況を見ると前向きな借入はもろんのこと、当面借入はしたくないといった状況であり、景気が上向いた感じがしない。しばらく状況をみないと分からないが、資金の流れをみると景気は大きく動いてない。	
	経営コンサルタント	それ以外	・調査要望等の仕事が減っており、余裕ができれば依頼するという客が多い。また、人員整理を始めた会社が目立つ。	
	経営コンサルタント	競争相手の様子	・メーカー間競争が続いており、小売価格を高く設定している。会社の業績が特に悪い。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・大幅に受注が増えるわけではないが、急激な落ち込みもない。	
やや悪く なっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・畜産関係、特に牛の枝肉の販売はデフレの影響で厳しい状況である。	

		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏場にかけて受注量、従来商品の動きが悪くなっている。29日から陶器市が開催されているが、高額商品の出が悪く、安い商品ばかりが動いている。売上も前年の1～2割減の状態である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・コストダウン要請があっており、厳しい。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に減少傾向にある。
	悪くなっている	建設業（社員）	競争相手の様子	・最近、創立50年の老舗の建設業者が自己破産をした。県格付Aクラスの業者でもあったが、最近の受注減ではどうすることも出来ない状況である。多数の技術者や労務者を抱えた業者が、今の時期は非常に苦しい。特に今年度は前年比2割減の工事量となっており、下請の多い我社は今後も同業者の動向に注意が必要である。
		その他サービス業[設計事務所]（代表取締役）	競争相手の様子	・建設コンサルタントは市町村等の業務発注が減少していることから、経営難になっている。4月の年度替りを迎えて、倒産が発生したり、年長者の退職と非常勤での再雇用の動きが顕著になっている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・4月の求人状況は前年比で50%増しとなっている。雇用調整を図っていた企業から人不足での問い合わせが増加傾向にある。ただ前年が悪すぎたため、一昨年と比べれば70%程度である。
		人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・人員削減を実施もしくは検討中の企業数は確実に減少しており、逆に今後の業績によっては増員を検討している企業が増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年並みに回復し、求人件数が上向きに推移している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者が減少し、有効求人倍率が上昇の傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・雇用情勢は依然として厳しい状況が続いている。有効求人倍率は0.4倍台と低水準で推移し、前年を5.7%下回っている状況にあるが、新規求人数は緩やかな減少に転じている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比13.5%の伸びを示している。平成21年10月以降、平成22年2月を除き、新規求人数は増加傾向を示している。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・都市圏の派遣依頼の件数は前年比1割増しになっているが、地方では相変わらず依頼がない状況が続いている。労働者派遣法の改正内容について客から今後利用できるのか、どういう利用が可能か等の問い合わせが多い。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・新年度がスタートしたが、人手を増員出来そうな企業はあまりない。今の人員で対応せざる得ない企業がほとんどである。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・半導体の受注が回復したとの話があるが、事務系の派遣を増やす気配は全くない。依然、社内の人員がだぶついている様子である。
		新聞社[求人広告]	求人数の動き	・求人数の動きが悪くなってほぼ一巡したこともあり、前年比としては回復基調にあるが、求人件数は依然、停滞している。また求人の業種にも偏りがある。
		新聞社[求人広告]（担当者）	採用者数の動き	・新聞広告の求人広告数はこの2～3か月横ばいの状況である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が16か月ぶりに前年比プラスとなったものの、求人内容は臨時的な内容が多く、現在まで本格的な求人増になる要因がみつからない状況である。
		学校[大学]（就職担当者）	求人数の動き	・時期的には求人受理件数が増加しているが、採用予定の人数は抑え気味のままである。また、学内で実施する採用セミナーへの申込状況は低調なままである。
		学校[専門学校]（就職担当）	採用者数の動き	・求人が少しずつ出始めた感はあるが、採用者数が少ないため超厳選採用の状況は変わらない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	それ以外	・決算期を迎え、前年度から大きく下がっている状況が明らかとなった。定期昇給もなく、夏期賞与の見込みもあやしくなっている。全体の景気は落ち着いた印象はあるが、福岡では夏まで下がりつつある。

	新聞社 [求人広告] (担当者)	採用者数の動き	・ 4月に入り新聞広告の求人の落ち込みが大きい。中途募集も減るほど採用側も厳しい状況である。また来春の大卒求人の採用もこれから佳境を迎えるが、更に厳しい状況となる。
	民間職業紹介機関 (支店長)	求人数の動き	・ 求人数が前年から伸びておらず、依然持ち直していない状況である。
悪くなっている	-	-	-